

志津のお宝発見！地域と作る私たちの学校

草津市	活動名：志津小学校地域学校協働本部	志津小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：3人 ボランティア登録数：200人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

総合的な学習の時間での支援に関わって、子どもたちが地域に愛情を持ち、将来地域のために活動できるように、どのような学習をプログラムしていけばよいか熟議した。志津のお宝は「自然」と「歴史」であることをもとに、系統的な学習を仕組んでいこうと確認し、学習したことをこども環境会議などで地域に発信していくこととなった。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)3年生「総合的な学習の時間」

3年生の総合的な学習の時間「志津のお宝大発見！」では、地域の方に来ていただき、自然や歴史、工芸品などの話を聞いた。その話をもとに、地域の素敵なお宝を探るために、地域探検に出かけた。また、「草津焼き」の窯元の方に来ていただき、教えてもらいながら、草津焼きでランプシェード作りの体験をした。素敵なお宝がたくさん仕上がり、自分たちの地域に昔からある工芸品のよさを知ることができた。



【 草津焼き体験 】

(2)6年生「総合的な学習の時間」

6年生の総合的な学習の時間「志津つながりプロジェクト」では、自分たちの地域について話を聞いた。本校の歴史や、昔の道や川の様子など、学校の変遷などを詳しく教えていただいたことで、人とのつながりでまちができていくことに気づいた。

それをきっかけとして、自分たちも地域の一員としてできること、やってみようと思うことなどを考えていった。

■ 実施に当たっての工夫

2年生の町探検や、3年生の「志津のお宝大発見」など、実際に地域に出かけ地域の方から話を聞くことを心掛けた。また、6年生の「志津つながりプロジェクト」では、自分たちの学校や町の歴史について、実際に住み続けておられる方に話を聞くことで、志津のまちにさらに興味を持てるようにした。地域に伝わる歴史的なことや、自然、寺社などについて地域の方から詳しく教えていただき、実物を見たり体験したりすることで、地域のものや人に対して愛着を持つことができ、自分たちにできることを考えようという意欲を高めることができた。また、地域学校協働活動推進員との連携を密にすることで、地域の人材発掘や企業等の紹介をしてもらうことができた。

■ 事業の成果

今年度、「学んだことをいろいろな学年で地域に発信していく」ことを目標として、各学年で取り組んだ。その一つとして、6年生が学んだことをもとに、人とのつながりを大切にするために、地域の「ふれあい広場」で地域の人とつながる体験ブースを設置し、地域の方を巻き込んでスタンプラリーを開催することができた。また、他の学年も地域で学んだことを発表する場を持つことで、自分たちの地域を意識して守っていこうとする意欲を高めることができた。



【 志津つながりプロジェクト 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

総合的な学習を3年生から6年生まで系統的に計画し、地域協働校の取組と連携するようになってきた。学校運営協議会のメンバーの方にも講師になっていただき、学校運営協議会で熟議した内容を意識して話してもらった。これからも、学んだことの発信を充実させていきたい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(学年担当者)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

地域の方と一緒に、学び育つ南っ子！！

草津市	活動名: 志津南小学校地域学校協働本部	志津南小学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度:平成 28 年度 地域学校協働活動活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:145人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに印)

学 校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行 政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・各学期の学校(児童)の様子
- ・各学期の地域協働校の取組についての紹介や協力依頼
- ・学校と地域との連携について意見交流
- ・学校と立命館大学との連携事業について

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)「学校ボランティア活動」(全校)

昨年度より、地域の方々や保護者に呼びかけ、登録制の学校ボランティアを実施している。校内での学校行事や学習のサポート、校区内での校外学習の見守りなど、都合のつくときに気軽に参加いただくことをコンセプトとして実施している。高学年の家庭科「裁縫やミシンの扱い」、地域の公園への自然観察、学校の花壇の整備等にもご尽力いただいた。

(2)「立命館大学との交流」(全校)

「立命館大学 BKC 地域連携課」の方にご協力いただき、学生の方々に小学校に来ていただき、1年生から6年生まで学年毎に、ダンスや紙飛行機製作、天体学習、ダブルダッチ、バスケットボール、レクリエーション運動などの体験をさせていただいた。



【 たのしい あきいっぱい 】

■ 実施に当たっての工夫(学校ボランティア実施についての工夫・対応等)

学校ボランティアの継続と、どの活動にも参加者がいていただけるようにするために、気軽に参加いただける雰囲気作りと特技を生かせる活動内容を常に意識して募集をかけるように心がけている。また、地域学校協働活動推進員を窓口し、地域の学校ボランティアの方々に活動案内のプリントを配布し、参加希望者を募るとともに、保護者ボランティアの方々には、児童を通じて活動内容を知らせた。



【 立命館大学との交流 】

■ 事業の成果

学校ボランティアの協力によって、児童の学習活動が充実したり、安全に実施できる手助けになったりと成果が大きかった。また、学校の環境美化にもつながった。立命館大学との交流については、学年のニーズに合った内容で、年齢が近い学生の方々に教えていただいたり、触れ合ったりできたことは、児童が人や物事に興味を持つ良い経験の場となった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

協力いただいている方々の後継者をどのように探していくかは今後の課題である。また活動内容に関しては、地域の方と学校との互いの思いや意図をしっかりと話し合いの中で確認して実践することが大切である。今後も、そのような事を意識し、互いにとって有意義な活動にしていきたい。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

年に4回、学校運営協議会において、地域協働校の事業計画や実施状況を報告している。そこで出された意見や助言等を参考に、して次の活動に生かしている。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに印)

校 長 教 頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者 (地域連携担当教職員)

なでしこESD カリキュラム ～地域と学び合い、発信しよう～

草津市	活動名：草津小学校地域学校協働本部	草津小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域協働合校概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：35人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・各学年のESDの取組みについて
- ・地域協働合校事業の取組みの成果と課題について報告

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)「なでしこの花を育てよう」

「なでしこ」は、本校の校章の図柄であり、子どもたちにより愛着を感じさせながら愛校心を育てる活動を実施している。総合的な学習の時間等を活用し、環境ボランティアや湖南農業高等学校の協力を得ながら、苗の植え付けや水やり、草引き等、日々世話をし育てている。

(2)環境ボランティアとの連携「米づくり(5年)」「花を育てよう(3年)」「さつまいも作り(1年)」

5年生は総合的な学習「なでしこ」の時間に、敷地内にある学校田で稲を育てている。毎年、土づくりから収穫まで、環境ボランティアが児童一人ひとりに丁寧な指導をしている。1年生は「さつまいも作り」、3年生は「花の植え替え」も地域の方と一緒に活動している。5年生は、米の収穫後に「収穫祭」を開催し、環境ボランティアさんを招いて劇や歌の発表を行い、交流を深めた。



【 5年 米づくり 】

(3)各学年の「なでしこ ESD カリキュラム」の実践

- 1年:「いきものや秋と、なかよくなろう」【地域】
- 2年:「草津のまちをもっと知りたい たんけんたい」【地域】
- 3年:「みんなにやさしいくらし～草津小から考える～」【福祉】
- 4年:「みんなでつながり安心・安全！草津防災大作戦」【防災】
- 5年:「GO！5！田んぼ～未来につながる草津小の田んぼ」【環境】
- 6年:「草津のまちから『わたしたちの考える平和』」【人権】



【 4年 防災フェスタ 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・児童が課題意識を持続し、地域の方と共に解決に向けて行動・発信していけるように仕掛けや出会い方を工夫した。
- ・児童との交流がその時限りのものでなく感想文やお礼として伝えることで、地域の方々のやりがいにつながるようにした。
- ・4年生は市の危機管理課や草津市消防団を招いて身近な防災について学び、「防災フェスタ」を通して保護者も招待して、家庭や地域の防災・減災について提案・発信した。

■ 事業の成果

- ・何年も継続してボランティア活動に取り組んでいただいているため、スムーズに活動を行うことができている。
- ・継続した取り組みが地域の方の「草津小学校の教育活動を支援している」という誇りや生き甲斐につながっている。関わりが深まることで、児童は、収穫の喜びとともに「いろいろな人に見守ってもらっている」と感じ、豊かな心の成長につながっている。
- ・地域と共に学ぶ姿勢が、児童への社会参加の意識や自己有用感の醸成につながった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・継続的な活動が多く、ボランティアの方に任せてしまうことがあるので、活動を問わず、共に考える場を設定している。
- ・ボランティアの方が熱心に、児童一人ひとりに丁寧な指導をしてくださるおかげで、児童の意欲向上につながっている。より一層「児童が試行錯誤をし、自力解決する力をつける学習」を目指す必要性を感じている。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

- ・年4回の学校運営協議会において連絡調整等を実施している。
- ・スクール ESD に取り組み、地域の課題解決をしている。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(各学年主任)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

「人・もの・地域」と出会い、ふれあい、高め合おう！

草津市	活動名：草津第二小地域学校協働本部	草津第二小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：123人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 ■行政 ■その他(草津駅前商店街・草津川跡地公園 de 愛ひろば)

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・子どもたちが地域への愛着を深めるためには、まず地域と関わる大切だと確認した。
- ・本校が会場となった「全国造形教育研究大会」を運営協議会の皆さんに参観していただき、今後地域とどのように関わっていくのか見守りたいという意見が出た。
- ・地域の方によるボランティア活動の取組について意見交換した。
- ・子どもたちがのびのびと成長し、学習に取り組むために地域で支えていきたい。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

【4年生 きつね踊りを体験しよう】

本校の近くには、1000年以上前に創祀された「小汐井神社」があり、昔から収穫を祝い、感謝をささげる「きつね踊り」が伝わっている。4学年の社会科で、昔から伝わる地域の祭りについての学習の一つとして、この「きつね踊り」を体験した。小汐井神社に関わっておられる「きつね踊り保存会」のみなさんに、由来や歴史、踊り方を教えていただいた。希望する子どもたちは、秋の古例祭りに衣装や鈴をつけて参加し、地域の方とさらに交流を深めることができた。

【6年生 マイドリーム】

卒業を前にした6年生が、様々な仕事をされている方にお話を聞き、自分の夢について考える「マイドリーム」の学習。今年度は保護者からの紹介で、難病によって寝たきりの生活を送りながらも社会福祉士として活動されている方からお話を聞いた。在宅生活のため、「Orihime」という分身ロボットを通して、自分の可能性を信じることや夢を持つことの大切さについて聞き、自分の夢について考えることができた。



【 4年 きつね踊り 】

■ 実施に当たっての工夫

4年「きつね踊り」では、地域の方に踊りの由来を聞いたり、実際に使うお面や衣装を見せていただいたりすることで、興味を持って主体的に体験することができた。

6年「マイドリーム」では、事前にメールでやりとりを重ねたり、実際に「Orihime」をボランティアの方に連れてきていただいで打合せをしたりすることで、学校側の意図と話し手の方の思いをつなげ、子どもの心に響く話をさせていただけるよう工夫した。



【 6年 マイドリーム 】

■ 事業の成果

4年「きつね踊りを体験しよう」では、コロナ禍を経て昨年度からこの学習を復活したことで、地域の方との交流を深め、さらに地域の行事に参加させていただくことで新たなつながりができた。

6年「マイドリーム」では、事前の打合せを密にすることで、難病になっても夢を持ち続ける姿が子どもたちに伝わるように話していただくことができた。そのため子どもたちが自分のこととして「夢」をとらえ、自分について振り返ったり、自分の気持ちを見つめ直したりすることができた。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

どの学年でも「どんどんチャレンジ！やればできる！」を合言葉に、体験して考えたり学んだりすることを大切に、学習に取り組んでいる。また学習の内容や児童の様子は、学校ホームページや学校だよりなどを通じて、保護者や地域の方に発信している。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他()

報告書記入者 (地域連携担当教職員)

草津市	活動名：渋川小学校地域学校協働本部	渋川小学校 学校運営協議会：■有 □無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成27年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:220人 <input type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

学校運営協議会では、地域の方に学習の様子を紹介している。また、地域の中で学習の内容に合った人材がおられるかという相談をしている。1月の渋川ESDミュージアムは、学校HPを利用し地域に発信をしている。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

- ・地元の人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。
- ・全校で学びの成果を展示物にまとめ、「渋川E(いいまち)S(しぶかわ)D(だいすき)ミュージアム」を開催し、保護者や地域の方にHPで発信している。
- ・5年生では、「滋賀の郷土料理学習」を核に郷土料理の魅力について考えた。日野町からは和菓子職人を講師に招き、丁稚羊羹作りを実施した。作った丁稚羊羹はパッキングしてもらい、家に持ち帰って家族に学んだことや魅力を伝えた上で、家族と共に味わった。また、琵琶湖の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚貝を使った郷土料理「湖魚の佃煮」や「アメノイオご飯」を試食した。
- ・6年生では、「世界農業遺産」に認定された滋賀の農業・水産業を中心に学びを深めた。琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力を知ることを通して、郷土への愛着や誇りを育むことをねらっている。郷土の農産物の中から「米」「野菜」「茶」をテーマに選び生産者と出会ったり、農産物を味わったりといった体験を数多く取り入れた。また、琵琶湖真珠の歴史や養殖の技術について学び、修学旅行では三重県の海の真珠の養殖業について学びを深めた。近江茶学習では、近江茶の歴史や産地の特徴について学び、ほうじ茶づくりを体験し、味わうことができた。

■ 実施に当たっての工夫

地域に関わりのある物や、ゆかりのある方との調整を地域学校協働活動推進員が中心となって行っている。また、地域学校協働活動推進員と担任との連携を密に行うことにより、学校ニーズを把握した上で充実した活動を行うことができています。活動内容に関しては、見たり触れたり味わったりする体験的な活動を行うことで記憶に残るような活動にした。



【 5年生 丁稚羊羹 】

■ 事業の成果

すべての学年が地域の方に協力を得て子どもたちの豊かな体験の場・学習の場となっている。活動を通して子どもたちは地域に対する愛着を育むことができています。また、HPなどで発信することで保護者や地域の方々にも地域のことを知っていただく機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

子どもの実態や学習の内容に合わせて工夫の余地がある。めあてをしっかりと設定して見直しをもって取り組ませたい。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

年4回、学校運営協議会において子どもたちの学びを報告するなど連絡調整等を実施している。
また、地域の中で学習の内容に合う人材がおられるか相談したり検討したりしている。



【 6年 近江茶を学ぼう 】

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(学年主任・学級担任)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

手をつなぎ、心通わす ^{ゆう} ^{ゆう} 誘・融（融けあう）老上

草津市	活動名：老上小学校地域学校協働本部	老上小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：221人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・本校研究事業スクール ESD に関わる取り組みについて (地域協働連携のあり方について)
- ・各学年の取組とボランティア・地域の協力の今後について

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

- ・米や野菜の栽培・収穫

「老上ふれあい農業高校」と学校が連携・協働して、5年生児童と農業体験を行っている。米や野菜を作る楽しさ、食への感謝の気持ちを持てるように学年に応じてめあてを設定し、学習を進めた。単に学習して終わりではなく、児童それぞれが学校外で地域に出るときにも声を掛け合える関係を作り、地域の活性化に繋げている。

- ・まちづくりセンターをかざろう ～6年生の実践から～

6年生が地域まちづくりセンターの庭園をかざる活動を行っている。地域ボランティアが進めていた地域まちづくりセンターの庭園管理の担い手が不足していることを課題意識とし、「困っているまちづくりセンターを自分たちの手でよくしたい」という願いを持って学習を進めている。

園庭の備品のペンキ塗り、クリスマス飾りの製作などを地域の方々の意見を取り入れながら、自分たちの願いの実現に向かって取り組んでいる。



【 稲刈りの様子 】

■ 実施に当たっての工夫

地域学校協働活動推進員と各学年のスクール ESD 部会担当者を中心に連絡調整を行いながら、学習計画を作成している。その際、学校での総合的な学習の時間における展開やねらいなどを丁寧に伝えることで学校と地域の取組が繋がるようにしている。また、農業高校の畑には、年間の作業を掲示するホワイトボードが設置されており、常に地域住民が確認できるようになっている。



【 まちづくりセンターとの共同作業 】

■ 事業の成果

- ・子どもたちが地域の方の生活の様子や考え方にふれ、地域のよさや学区への愛着を感じられるようになり、豊かな人間性を養うきっかけとなる取り組みとなっている。
- ・地域の方々とふれ合ったことがきっかけになり、家庭でも地域のことが話題に上がり、保護者の方々も地域について興味を持つきっかけを与える役割を果たしている。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

取組をよりよいものにするために、綿密な打合せ及び準備が必要になる。働き方改革が叫ばれる昨今の教育現場の状況を鑑みて、学校と地域それぞれの負担の軽減に取り組むことが必要である。また、長年地域学習に係わる方々からは、高齢化の進行で事業の継続がより困難になってきている現状もあり、新規の、かつ若手の推進委員・ボランティアの確保が必要である。新たな人材の確保、また円滑な情報の共有のためにも、これまで以上に地域学校協働活動推進員の果たす役割が重要になってきている。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

老上小学校・学校ホームページ <https://kusatsu.scblo.jp/oikami>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

やってみよう！2024 ～地域とともに協同（協働）する学校～

草津市	活動名:老上西小学校地域学校協働本部	老上西小学校 学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成28年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:75人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・地域協働合校の活動方針や実施した内容について
- ・郷土に関する学びを深める学習について

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)栽培活動

1年生のさつまいも、2年生の大根、5年生の米などの作物を、農業合校やサポーターの方の協力を得ながら栽培した。栽培中は、適宜様子を観察し、成長を見守った。収穫した作物は、家に持ち帰り、収穫の喜びを感じることができた。

(2)学習支援

5・6年生の家庭科の学習で、裁縫の学習支援をしていただいた。担任の目が行き届きにくいところの支援をしていただいたおかげで、安全に配慮しながら、きめ細かい支援を行うことができ、子どもたちは、充実感を得ることができた。

(3)読書活動の推進

図書ボランティアの方には、本の貸し出しや整理、掲示物の作成など、子どもたちが本に親しめる環境づくりに貢献いただいている。毎週火曜日には、低学年を中心に、朝の学習の時間を使って読み聞かせをしていただいた。子どもたちは、読み聞かせを大変楽しみにしていて、読み聞かせをきっかけとして読書の幅を広げることができた。

(4)郷土学習

3年生の校区探検の際に、宮司や地域の歴史に詳しい方に、それぞれ現地でお話を聞かせていただいた。

下笠サンヤレ踊り保存会のみなさんに、草津市に伝統的に伝わるサンヤレ踊りについて、実演を交えながら教えていただいた。



【 5年生 稲刈り 】



【 4年 サンヤレ踊り 】

■ 実施に当たっての工夫

年度当初に「サポーター活動年間計画」を作成、配付し、保護者や地域の方に一年間の見通しを持てるようにしている。

■ 事業の成果

- ・地域学校協働活動推進員を中心として、地域や保護者との連携を密にすることで、子どもたちの体験的で主体的な学習を安全に実施することができた。
- ・郷土について学ぶ取組を、3・4年生で行うことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

郷土について学ぶ活動を、充実、発展させていきたい。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

学校ホームページ <https://kusatsu.scblo.jp/oikaminishi>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

すきです玉川 わたしも参加 つくるよろこび

草津市	活動名：玉川小学校地域学校協働本部	玉川小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：40人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他(地域、自治会・地域団体等)

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・児童が地域の課題を解決したり、依頼に応答したりする課題解決型学習に取り組めるよう、学校・地域・保護者と連携・協力して活動の支援・補助を行う。
- ・地域に愛着を持ち、地域に貢献できる児童を育成することを目指す。
- ・例年どおりの活動にこだわらず、児童・地域・保護者等の実態・特性に応じて、内容を弾力的に変更・修正したり、新たな活動に取り組んだりする。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

「TDGs(玉川大好きがんばるぞ！作戦)～玉川学区安全マップを完成しよう！～」(4年生)

4年生はSDGsをテーマに学習活動を行い、社会には解決すべき課題があることを知るとともに、講師による講話や調査活動を通して、課題解決のための様々な取組について学び、SDGsについての理解を深めてきた。

2学期からは「学区・地域」に焦点を絞り、地域貢献を目指した「TDGS(玉川大好きがんばるぞ！作戦)」に取り組んだ。自治会と相談・検討し、「交通安全調査」「交通安全マップの作成」を地域と児童とともにに行った。地域から依頼を受けた児童は、学区内の交通安全上の危険個所の調査を行い、結果をまとめ、「玉川学区安全マップ」を完成させた。また、安全マップを進呈する機会を児童自ら提案し、「安全マップ完成会」を開催した。



【 児童が作成した安全マップ 】

■ 実施に当たっての工夫

保護者・地域が学習活動に参画できる機会を提供し、TDGsの取組について理解・協力を得るように努めてきた。その結果、交通安全調査活動において、約20名の保護者に協力いただき、安全に調査を終えることができた。保護者・地域の支援・補助は、活動の充実不可欠であり、常日頃から活動の内容やねらいを発信する必要性がある。



【 安全マップ完成会での進呈 】

■ 事業の成果

地域からの依頼に応えることや、自分たちのがんばりが地域貢献に寄与することを実感できたことが、児童の自主的・自発的な活動を生み出し、意欲的に取り組む要因になったと考えている。また、保護者・地域に支えられて学校生活を過ごしていることに気付くいい機会となった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

「継続的に実施できる活動」と「新たに計画する活動」を区別し、毎年、児童・地域・保護者等の実態・特性に応じて、新たな活動に取り組んでいけるよう努めていきたい。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

学校運営協議会で、地域協働校の取組や活動計画の立案・実践について報告・協議を行っている。さらなる具体的な協議の場になるよう工夫していきたい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他(学級担任等)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

素敵な出会い みんなで創るまち 南笠東 ～大人も子どもも 共に地域で学びましょう～

草津市	活動名：南笠東小学校地域学校協働本部	南笠東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：約100人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 ■その他[クラブ活動講師]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・南笠東小の地域の皆さんで構成された「みな小おうえんたい」の活動写真などを学校だよりや学校HPに掲載した。
- ・地域まちづくりセンターへの掲示を継続することで、「みな小おうえんたい」の活動をより多くの方に知ってもらうようにする。
- ・「みな小おうえんたい」のボランティア人数のさらなる充実につなげていくこと。
- ・保護者へのPRを積極的に行うとともに、保護者(PTA)との連携を図っていくこと。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

【みどり学級 野菜屋さん(特別支援学級)】

みどり学級の学習で野菜の苗植えから地域の方に協力いただいた。収穫した野菜(玉ねぎ、じゃがいも、さつまいも)を地域のまちづくりセンターで販売した。児童にとって、野菜販売という学習だけでなく、「ありがとう」「おいしかったよ」と地域の方と交流できたことも、大変有意義であった。

【みな小おうえんたい(学習支援)】

- ・狼川の生き物探し[3年生]学校近くの狼川に生息する生き物を一緒に探していただいた。どの辺りに網を入れたらいいか教えてもらったり、生き物の名前を聞いたりすることで、校区の川への関心が高まった。
- ・糸のコススイイ[5年生]初めて使う電動糸のこの使い方を教えていただいた。丁寧に教えてもらうことで、児童が安心して活動に取り組むことができた。

【学校周辺の道路のゴミ拾い(日赤さんと一緒に)】

マナー向上委員会の児童と「みな小おうえんたい」「日赤奉仕団」の方々とで、学校周辺のゴミ拾い活動を行った。児童と地域の方が一緒に活動することで、郷土愛の育成につながった。



【みどり学級 野菜屋さん】



【5年糸のこ おうえんたい】

■ 実施に当たっての工夫

- ・事業実施については、担当学年からの要望を地域学校協働活動推進員に伝えたり、事前に打合せを行ったりすることで、活動内容の充実につなげた。
- ・児童や教師からの「こんな活動をやってみたい」という声に地域学校協働活動推進員が協力して実施へとつながった。

■ 事業の成果

- ・校内掲示板を活用したことで、校内でも児童や保護者がいつでも活動内容を知ることができた。また、学校HPや学校だよりでも啓発することで、より広く周知できた。
- ・地域の方々が大変協力的で、子どもたちに関わることに喜びを感じてくださっている。今年度も総合の学習などの学習のゴールとして、発表などを地域の方に向けて行うことで、児童も地域の方も達成感を感じることができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

引き続き、学習支援を中心に実施を進めるとともに、ボランティア数の確保に努めたい。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

- ・学校運営協議会に、地域コーディネーターや地域まちづくりセンターの職員も参画していただいている。
- ・HPにて、活動を紹介している。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(担任)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

出会い・ふれあい・学び合い ～みんなで育てる山田の子～

草津市	活動名：山田小学校地域学校協働本部	山田小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：70人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・山田校区ならではの特色ある取組を継続して行っていく。
- ・地域との関わりを深めるとともに、新たな人材の発掘を行っていく。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)山田ねぎみ大根を育てよう【2年生】

2年生では、地域の方の指導のもと、草津市北山田町の名前を冠する伝統野菜「山田ねぎみ大根」の栽培に取り組んだ。畑の土壌改良を行い、そこに子どもたちが種を植え、水やりや除草などに取り組んだ。がんばって世話した甲斐もあり、たくさんの立派な山田ねぎみ大根を収穫することができた。また、県立湖南農業高等学校を会場に開催された「山田ねぎみ大根品評会」では教育長賞も受賞でき、子どもたちの大きな自信につながった。

お世話になった方々を招いて大根パーティを開き、収穫した山田ねぎみ大根を調理して一緒に味わう中で、感謝の思いを伝えることができた。



【 山田ねぎみ大根の収穫 】

(2)できることから はじめよう ～食品ロス～【5年生】

5年生では、米づくりをきっかけに「食」に関わることを考えていく中で、食品ロスの問題に目を向けた。立命館大学の学生に来ていただき、食品ロスの現状について教えてもらい、食品ロスをなくすために自分たちに何ができるかを考えた。クラスで給食の残菜を減らすための呼びかけを行ったり、スーパーや飲食店に、食品ロス削減を呼びかけるポスターやポップを掲示してもらったりした。

また、保護者向けに、残り物のアレンジレシピを提案したり、買い物リストの活用を呼びかけたりした。



【 食品ロスをなくすために 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域との窓口を地域学校協働活動推進員が中心となって担い、調整を進めることで、地域との連携がスムーズに進み、より有意義な活動になるようにしている。
- ・各学年の活動内容を、学校のホームページだけでなく、山田学区まちづくり協議会のLINEでも配信いただくことで、保護者をはじめ、より多くの方々に知ってもらえるようにしている。

■ 事業の成果

- ・校内の掲示板に『地域協働校コーナー』を設け、各学年の取組について紹介することで、多くの子どもたちが掲示板を見ている。
- また、「〇年になったらこんなことができる!」「この場所に行ってみよう」と自分たちが住む地域への関心も非常に高い。
- ・歩いていける範囲に、漁港、ビニールハウスや農業センター、田畑などがあり、様々な体験ができる環境にあるため、地域の方々の協力のもと、ともにふれあいながら体験を進めている。アンケート等でも「地域行事に参加している」と答える子どもが多い。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

自分たちが取組の中で感じたことや学んだことを地域に対して発信・提案できる場づくりを今後も進めていきたい。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

年間4回開催される学校運営協議会に地域学校協働活動推進員と担当教諭も参画し、子どもたちの活動の様子等を伝える中で、地域の様々な諸団体との連携がさらに深まるよう努めている。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

協力して育つ 共に育つ 響いて育つ 子どもの夢育て

草津市	活動名: 笠縫小学校地域学校協働本部	笠縫小学校	学校運営協議会: <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成27年度 地域学校協働活動活動推進員等数:2人 ボランティア登録数:50人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・図書ボランティアや学習支援などのネットワークが広がってきている。一方で募集の仕方や依頼の仕方などについて検討が必要。
- ・人脈を作っていくことの大切さを確認し、コミュニケーションを重視した支援体制を築いていけるとよい。
- ・創立 150 周年記念事業において、学習発表会の中で笠縫学区の歴史などを子どもが紹介していくことで、地域への愛着が深まる。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)「アオバナはかせになろう！」(3年生)

3年生の総合的な学習の時間で、地域の伝統産業である青花紙用のアオバナを栽培する最後のお一人である「アオバナ栽培の名人」を招き、苗の植え方や世話の仕方を教えていただいた。また、育てた花を摘み、伝統的な方法で和紙を染めて青花紙を作る体験をすることもでき、地域の産業についての理解を深めることができた。さらに、アオバナを使った菓子を草津駅の利用者に配布し、地域の人にもアオバナに関心をもってもらうよう働きかけた。

(2)「笠縫の歴史とこれから」(6年生)

6年生の総合的な学習の時間では、まちづくり協議会の方から、学区の伝統や課題について話を聞き、学習課題を設定した。ユネスコ無形文化遺産に登録された「サンヤレ踊り」やまちづくり協議会内の組織「ツナガリ隊」などに関心をもち、ゲストティーチャーを迎えて話を伺ったり、自分たちで調べたりして地域について理解を深めたうえで、自分たちに何ができるかを考えた。学習の終盤には、創立 150 周年記念の学習発表会で学習成果を全校児童や地域・保護者に発表したり、まちづくりセンター内で地域との交流イベント「ツナガリ祭り」を企画・実行したりした。



【 ツナガリ祭りで園児と交流 】

■ 実施に当たっての工夫

年度や学期初めに、学習支援等をお願いしたい内容について、学年と地域学校協働活動推進員とで打合せを行い、学習の展開や人材の確保に見通しを持てるようにした。

■ 事業の成果

- ・学習の成果を地域に向けて発表したり啓発したり、一緒に活動したりしたことで、達成感や自己有用感を味わうことができた。
- ・授業支援については、専門的な視点を生かした話を聞いたり、体験をしたりでき、子どもたちの学びが深まった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ボランティアとの授業前の打合せによって、授業はスムーズに進むものが多かった一方で、授業後のふり返りの時間を取ることは難しかった。地域学校協働活動推進員やボランティアが入れ替わっても、人材との連絡や段取り等が引き継げるように、記録の方法を工夫していく必要がある。
- ・年度末に近づくにつれ、講師謝礼が不足がちになった。年間計画を見直す過程で、必要となるボランティアについて整理し、見通しを持った予算計画を立てる必要がある。
- ・継続してボランティアに協力してくださる方がいるものの、学習を進める上で必要な人材を新たに発掘していく必要がある。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

笠縫小学校ホームページ <https://kusatsu.scblo.jp/kasanui> → → → → →



■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

ふるさとの「いのち」とふれあう東っ子

草津市	活動名：笠縫東小学校地域学校協働本部	笠縫東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成27年度 地域学校協働活動推進員等数:6人 ボランティア登録数:80人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・地域協働学校の取り組みについての紹介および協力依頼
- ・スクールESDIに関する各学年の取組

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

【3年生:知ろう!広げよう!!あおばなのすてき!!】

総合的な学習の時間で、草津市の市花に認定されている「あおばな」の苗を一人一株もらいうけ、大切に育てた。また、アオバナ会の協力を得ながら、あおばなの歴史や育ち方について学んだり、あおばなの色水を使ってうちわ塗り体験をしたりしたことで、あおばなの魅力について学びを深めることができた。育てた花は摘んで押し花にし、しおりを作成して地域の方に配付した。



【うちわ塗り体験】

【4年生:葉山川探検隊】

4年生の総合的な学習の時間では、現在と昔の葉山川の様子を学んでいる。今年も、地域の方より、葉山川の始まりや昔の葉山川の様子、川と地域の人々のくらしとのつながりについてのお話を聞き、学びを深めることができた。



【葉山川生き物調査】

【5年生:葉山川生き物調査】

毎年、市民グループ「草津塾」や地域の学習ボランティア、保護者有志のみなさんの支援のもと葉山川に入り、川幅の測定・透明度の調査、魚や水生昆虫などを捕獲し、ふるさとの川の様子を調査している。本年度は、調査後に「We love 葉山川プロジェクト」と題して、いくつかのプロジェクトチームを立ち上げた。「ヨシ・ホタルチーム」では、公益財団法人淡海環境保全財団の方からヨシの重要性や活用についての話を、「親水公園チーム」では、滋賀県流域政策局河川・湾岸室河川環境係の方から親水公園の役割や設置までの流れについて話を聞いた。自分たちにできることにまで考えを深め、行動しようとする態度を養うことができた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・年度初めに「エコスクール」を開き、各学年主任と市民グループ草津塾とで年間の学習内容や体験活動の日程調整を行っている。
- ・地域学校協働活動推進員が窓口となって、地域および学習ボランティアとの連絡や日程調整を行うことで、円滑に事業を進めることができています。

■ 事業の成果

- ・本年度は学習発表だけでなく、地域の方や各団体へ発信することもできた。子どもたちの思いが形となって届けられたことは、大きな自信へとつながった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域の方の高齢化が進んでいるため、事業内容の精選や人材の確保が今後必要である。
- ・地域や学習ボランティアへの連絡方法や事業内容が地域学校協働活動推進員の間で確実に引き継げるようなシステムを残していくこと。
- ・「東っ子博物館」を学習発表と啓発の場として今後も活用していく。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(該当学年教員)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

みんなで育てた おいしい焼き芋パーティ！ ～すこやかに育て 常盤っ子～

草津市	活動名：常盤小学校地域学校協働本部	常盤小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成27年度 地域学校協働活動推進員等数：3人 ボランティア登録数：300人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・地域学校協働活動推進員の複数人体制について。
- ・地域の協力体制のお願い。
今までの地域学習を継続させるために地域の方の高齢化が問題である。他に協力していただける方はいないかという相談。
- ・学力の底上げに関して、地域力を活用した内容の精査。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

地域の方の協力ののもと、1年生の生活科の学習の中で、5月にサツマイモの苗を植えた。地域学校協働活動推進員の方々や民生児童委員の方々にお手伝いいただき、苗の植え方やお世話の仕方を教えていただいた。また活動のために、土を耕したり、雑草を抜いたりしていただき、地域の方が児童の成長を支えていただいているという意識を改めてもつことができた。

11月の焼き芋パーティーの時には、一緒に芋を焼いたり、食べたりして更に交流を深めた。また当日には、窯の準備や火の見張りなどもしていただき、地域の方と共に充実した活動に取り組むことができた。地域の方からも「一緒に食べるとおいしいね。」や「みんないっぱい食べて大きくなってね。」という温かい言葉もかけていただき、子どもたちにとって、更に地域への愛情を深める活動にすることができた。



【 サツマイモの苗植え 】

■ 実施に当たっての工夫

年度や学期初めに、学年と地域学校協働活動推進員、地域連携担当とで打合せを行い、学習の展開や人材の確保に見通しを持てるようにした。

■ 事業の成果

- ・事業支援については、専門的な視点を生かした話を聞いたり、体験したりでき、子どもたちの学びが深まった。
- ・継続して授業支援に取り組んでいただいている方が多く、打合せや準備をスムーズに行うことができた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域の方々との授業前の打合せによって、授業はスムーズに進むものが多かった。一方、授業後のふり返りの時間をとることは難しかった。地域学校協働活動推進員や授業支援の方々が入り替わったとしても、連絡や段取り等が引き継げるように、記録の方法を工夫していく必要がある。
- ・活動の見通しは年間計画として立ててはいるが、活動は子どもたちの声で変更することがあるため、年度末に向けての授業支援謝金等の見通しをもつことが難しい。年間計画を立てる段階で、より具体的な支援人数等も考え、計画も更に見通しが持てるようにしたい。



【 焼き芋パーティー 】

■ その他(学校運営協議会との協働等)

毎回、運営協議会で進捗状況を報告し、各委員から助言を得ている。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他()

報告書記入者 (地域連携担当教職員)

持続可能な社会を担う資質と能力をもつ生徒の育成

草津市	活動名: 高穂中学校地域学校協働本部	高穂中学校	学校運営協議会 : <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度: 令和6年度 地域学校協働活動推進員等数: 1人 ボランティア登録数: 18人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

本校では、課題解決のために計画し、失敗を恐れずやり抜く生徒育成のため、学習の場を地域へ広げ、日頃の学校生活では学べない経験や知識が得られるように地域協働校事業を推進している。総合的な学習の時間で「たかほ学」と称し、地域へ学校から出かけていくようなつながりがある行事を増やしていくために活用できる地域資源について学校運営協議会で協議している。令和4年度からは保護者や地域住民へ学校教育を支援していただくため、年間行事や授業補助、学校環境整備等の案内を配布し、ボランティアを募っている。図書書籍ブックカーかけや調理実習補助、校外行事での交通立番等学校への協力者も定着しつつある。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

「たかほ学」

- 1年生…ふるさと学習 草津市自慢を切り口に、草津市について関心のある8分野(歴史・文化、開発、自然、農業・食、国スポ・障スポ、防災、環境、物づくり)に分かれてフィールドワークや専門家によるセミナーを実施。
- 2年生…生きかた学習 キャリアパスポートを活用して自分を見つめなおすとともに、自分の適性に合った職業について調べ、2学期に実施する職場体験学習へとつなげた。事前学習として様々な職業の方からの職業講話や高校の先生方を招いて、社会人としてのマナー講座を実施。お世話になった職場の方を招いてWorkingサミットを実施。
- 3年生…社会参加学習 修学旅行先の沖縄で7つの分野(平和、観光、農業、自然、防災、文化、交通)にわかれて学びを深め、SDGsの視点を取り入れながら他の分野とコラボレーションさせ、より良い草津市を創るための提案を考え、広く伝えていくためグローバル実践(地域や企業、大学や小学校と連携)。

■ 実施に当たっての工夫

- ・3年間の系統性を一覧にして共有し、各教科とのつながりもESDカレンダーに記載したことで常に教員間で目的を意識した教育活動を実践できた。
- ・生徒の学びや課題改善に向けた仮説を確認するため、フィールドワークに出かけたり、専門家によるセミナーを実施したりと体験的な探究学習を取り入れた。
- ・広く発信する場として学校内に留まらず、異世代交流を意識して校外へ発信の場を設けた。



【 2年生 Working サミット 】

■ 事業の成果

- ・総合的な学習の時間「たかほ学」での学びが将来社会に出たときに役に立つと肯定的にとらえている生徒は全体の約85%。
- ・地域人材の活用やフィールドワーク等、社会に開かれた探求型学習を実施できた。



【 3年生 グローバル実践 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

生徒主体に学びが進むため、外部との連携が急に決まることがあり、日程調整や内容伝達に必要な時間を確保することが難しい。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

学びの発信の場として、2学期後半に「たかほサミット」と称して保護者、地域、お世話になった地域企業や行政の方をお招きして学年ごとの発表を自由参観として開放している。各所への案内や当日の対応等連携を図った。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

「福祉・人権」を柱に「人と関わる」学校づくり

草津市	活動名：草津中学校地域学校協働本部	草津中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和6年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：6人 <input type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

「人権・福祉」を柱に「地域の人と関わる」学校づくり

- (1)1年生高齢者福祉体験学習、車椅子バスケットボール体験と講話
- (2)全学年総合学習「草生タイム」の計画について
- (3)3年生結婚差別にかかると人権講話

3年生では、中学校における同和問題学習の集大成として、同和地区に暮らすご夫婦を招聘し、実際の経験やありのままの状況を語っていただくことで生徒がより身近に部落問題について考える機会を持った。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)3年生総合学習草生タイム

「草津市未来計画～ずっと草津～」をテーマに、草津市の地域資源を生かした着地型観光を創案し、草津市観光マップ「まめぶらMAP」を作成した。成果物を地域まちづくりセンターなど、市内各所に配付した。作成にあたっては、店舗、見学地、公共施設など、地域の宝として生かせるポイントを生徒たちが取材し、その際、コーディネーターの仲介と助言を受けた。

(2)図書ボランティア

図書室にほぼ毎日、2～4名の図書ボランティアに来ていただき、図書室の飾り付け、お薦め本のPR、生徒会図書委員会との共同運営をしていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・生徒の生き方や将来の社会をよりよくするために自分事として考えられる内容(福祉体験や人権学習)を設定するよう工夫した。
- ・ゲストティーチャーや講師として来校いただく場合、授業の中でのねらいや1時間の流れ、指導していただくポイントをそれぞれの学年担当者が細かく打合せを行った。加えて、ねらいの共通理解、講師の日程と当該学年の時間割の調整を工夫した。

■ 事業の成果

(1)福祉体験学習

「共生社会」をテーマに、障害の有無や年齢、性別、国籍など、様々な違いのある人々が対等な立場で互いに尊重し合い、多様な形で参画・貢献できる社会について考えた。講師として、特別養護老人ホームの施設長、理学療法士、看護師、介護士など、様々な立場の方から講話を聞き、福祉体験学習を実施していただいた。また、車椅子バスケットボール選手を講師に迎え、講話を聞くとともに、実際に生徒も体験できたことで、すべての人の尊厳を大切に、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送れる社会の実現を目指そうとする意欲を育てることができた。

(2)図書ボランティア

図書ボランティアに蔵書整理や図書の登録だけでなく、読書スペースの拡充、環境整備、イベントの開催などをしていただいたことで生徒たちの図書館利用頻度が増し、本に親しむ環境をつくることができた。

(3)草生タイム

地域住民や見学先の大人と直接関わったことで、人間関係や地域でのコミュニケーションが密になり、様々な体験や学習をとおりて視野が広がった。



【 車椅子バスケットボール 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

地域協働校推進委員会を通じて、学校が支援してほしいことを地域に発信する。学校が求める支援やボランティアに合う人材の新規発掘をしていくべきだが、結局は毎年同じ講師に頼りがちである。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

ともに高め・輝かそう自分のよさ、老中のよさ、地域のよさ

草津市	活動名：老上中学校地域学校協働本部	老上中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:令和6年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:0人 <input type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・学校運営方針について
- ・学校生活の様子や行事への取り組みについて
- ・各種アンケートから見られる学校の強みや弱みと学力向上策について
- ・スクールESDくさつプロジェクトに関わる地域連携と活動について



【 ヨシについて調べたことを発表している様子 】

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

- (1)「老上三方よしプロジェクト(琵琶湖環境学習)」
 スクールESDくさつプロジェクトの一環として、総合的な学習の時間を利用して、琵琶湖について学ぶ取組を行っている。
- (2)「OR プロジェクト(老上再発見学習)“OIKAMI Rediscovery Project”」
 スクールESDくさつプロジェクトの一環として、総合的な学習の時間を利用して、「老上」の素晴らしさや魅力について学ぶ取組を行っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・琵琶湖体験活動(ヨシ笛づくり、ドラゴンボート、環境調査、等)の後に「調べ学習」「発表会」「講演会」を通して、自分事としての意識を高める。
- ・校区内のフィールドワークを通して、「私の思う『老上』のよさや魅力」について環境・経済・社会の視点からプレゼンテーション資料にまとめ、発信する活動・取組を進めていく。

■ 事業の成果

- ・講演会ではヨシを保護している団体とヨシを活用して商品を制作している企業が連携し、ヨシ刈りや新たな商品開発に取り組まれていることを学んだ。また、銀行が環境保全と深いかわりがあるということに気づき、様々な角度から琵琶湖の環境を守る支援ができることを理解した。
- ・身近であるために忘れがちであった地域の魅力について、考え直す機会となった。



【 老上中校区フィールドワークの様子 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・1年生は今後、実際にヨシを刈る活動に参加し、来年度の取組につないでいく。持続可能な取組となるよう、地域資源の活用についてのシステムを構築する必要がある。
- ・今後の発信先・発信方法が流動的なので、地域の方の協力で進めていく。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

今年度の成果から、次年度への具体的な支援について調整していく。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(各学年総合的な学習担当教員)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

いのち

自ら課題を見つけ、協働の学びを推進し、行動する生徒の育成—生命—

草津市	活動名：玉川中学校地域学校協働本部	玉川中学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和6年度 地域学校協働活動推進員等数：1名 ボランティア登録数：50名 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・学校や地域での行事もコロナ禍以前のように活発に行われるようになった。その中で、地域での経験をとおして、自己肯定感を持てるよう様々な取組を進めていく。
- ・明確な目標を持ち、様々な体験活動から取組を進め、学校と地域が連携して子どもたちの意欲や実践力を育む。

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

つながり学習

- (1年生)株式会社いろあわせ代表・北川雄士様から、資料のプレゼンの仕方やまとめ方などを学んだ。
- (2年生)総合的な学習の時間等を利用し、防災(立命館大学・深川良一招聘教授・摂南大学・池内淳子教授・湖南消防署)・地域(パナソニック・桜ヶ丘桜プロジェクト)、琵琶湖(あさがら野子どもと自然舎・池田勝代表)・人権(草津養護学校)・宇宙(立命館大学・佐伯和人教授)における各専門家や生徒から学び、深い学びや交流を行い、自分たちの生き方を考えた。また、全校生徒に向けて発表した。
- (3年生)総合的な学習の時間等を利用し、2年生で学んだことを応用してエコバック、かまどベンチ、ピオトープの作成やパラスポーツの開発などを行い、全校生徒に向けて発表した。



【宇宙分野で電波を受信するためのアンテナ作成の様子】

■ 実施に当たっての工夫

上記の取組で、2年生の宇宙分野は、今年度からの取組である。昨年度の学校運営協議会で、立命館大学で宇宙関係の取組が進められていると情報があり、中学校からの依頼を快く受けていただき実現した。また、3年生の各取組については、すべて今年度の取組であり、生徒から意見を収集して、昨年度の学びを活かせるように実施した。



【本校の中庭にピオトープを作成している様子】

■ 事業の成果

各学年の取組について、11月に全校で発表会を実施し、お越しいただいた講師、地域の方、保護者の方から次のよう感想があった。

- ・「宇宙」とか「衛星」となかなか日常では感じにくいところがあるけれど 自ら興味をもって学ぶ姿勢が素晴らしい。貴重な経験ができてよかったですね。10年~20年先の皆さんの活躍を期待します。
- ・中庭のピオトープ、見ましたよ。次世代の人にも大事にもらえるように大切な場所になればいいなと思いました。
- ・中学校時代の「つながり学習」では、体験を通して学ぶ面白さ 今後、地域でもご覧いただけます。2年生の防災分野で話をする様子を知りました。体験で友だちと仲良くなれました。「やってみよう」「調べてみよう」と思うことは卒業後も役立っています。この学びをより積極的に取り組んでください。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

日程のことも含めて、地域で学習の成果を発表する場を設けることを検討したい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

生き方やつながりを考えよう

草津市	活動名：新堂中学校地域学校協働本部	新堂中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和6年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：不明 ■学習支援(授業補助、学力補充等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 ■学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・ PTA活動の休止について
- ・ PTA活動休止に伴う、保護者、地域の人材へのボランティア活動の発信
- ・ 常盤学区、笠縫東学区両ふれあいまつりへの生徒の参加
- ・ 1年生地域学習、2年生職場体験学習、3年生保育体験学習について



【 1年地域学習「フィールドワーク」 】

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

- ・ 1年生地域学習「フィールドワーク」
班単位で校区内を徒歩・自転車でもわり、地域の歴史や文化、その他まちづくりセンターや消防署・交番・郵便局など、地域のよさを再発見する機会とした。
- ・ 2年生進路学習
キャリア教育の一環として、まず、地域の方々に職業講話の講師として来ていただき、「働く」ということについて考える機会とした。また、11月末の5日間、職場体験学習として実際に仕事体験を行った。
- ・ 3年生保育体験学習
家庭科と総合的な学習の時間のコラボで、保育について授業で学んだあと、学級単位で地域の保育所・こども園に出向き、実際に保育について体験した。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 草津市が取り組んでいるESD教育の一環として、今年度、令和7年1月31日に、これまで総合的な学習の時間で学んだ内容を、他の生徒や保護者、地域の方々へ情報発信していくために、本校の教室や体育館での取組発表会を、公開することにした。

■ 事業の成果

- ・ 本校の生徒は、元々地域の行事や取組に参加し貢献したいと考える割合が非常に高い。そのため、元々地域の方や講師の方と生徒が主体的かつ積極的に交流したり質問したりすることができるが、それに加え、発信できる力が今後さらに身につけてくるものと思われる。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・ コロナ禍で、それまで取り組んでいたことが一旦リセットされ、さらに働き方改革が叫ばれるようになったために、令和元年度までの頃の、教師主導型の取組はできなくなっている。しかし、令和4年度のこども基本法により、子どもが主体となって活動することの意義が重要視されることになり、ESD教育の推進と相まって、生徒が自ら学んだことを発信する機会を増やしていきたい。



【 2年職場体験 】

■ その他(学校運営協議会との協働等)

- ・ 生徒会が地域のふれあいまつりで行ってた1年生のフィールドワーク、全校道徳についての取組発表を学校運営協議会の委員が見学
- ・ 不登校(傾向)生徒への取り組みについて
- ・ 部活動の今後のあり方について

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(ESD教育担当)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

学校と地域の連携を通じて、生き生きと活動に参画できる社会づくり

草津市	活動名：松原中学校地域学校協働本部	松原中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和4年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：210人 <input type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・学校の運営方針について
- ・校内研究を含めた生徒の学力向上について
- ・地域協働合校の活動方針や実施した内容について
- ・スクールESDくさつ推進事業に係る地域人材と学校をつなぎ、継続した活動にするための手段・方法について

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

スクールESDくさつと家庭科の教科横断型の取組として、今年度より松原中学校区内のこども園3園で保育実習を実施した。活動の中心は、家庭科で学習した手遊びを園児と一緒に取り組んだり、春大根の栽培方法をタブレット紙芝居で園児に見せたりした。また、園児と一緒に春大根の種を蒔く取組を行った。

また、草津市農林水産課の農商連携調整員や地元農家の方々の指導の下、土壌改良や畝づくり、野菜の栽培などの農業に関わる体験活動を行った。



【 春大根の栽培方法をタブレット紙芝居で園児に見せている 】

■ 実施に当たっての工夫

4歳児と5歳児を対象に保育実習を行った。4歳児は園内で実習を行い、5歳児は園児が松原中学校まで来校して実習を行った。実習前に市役所の幼児課の方から講演をしていただき、実習に行くに当たっての心構えや注意すべきポイントを話していただいた。

農業体験については、総合的な学習の時間を通して、農産物を育てる意義や目的を考え、草津市の特産野菜である「バジクサ」について調べ学習等を行った。また、地元の農産物により親しみを持つため、地元農家の方に講演をしていただいた。

■ 事業の成果

世代を越えてのコミュニケーションを行う力を身につけることができた。生徒たちが中学校を卒業し、社会に出た時に様々な世代の人たちとコミュニケーションを図っていくきっかけとなった。また、この取組が家庭内での会話の話題となり、生徒の80%近くの生徒が家庭内で保育実習のことを話題にしていることがわかった。また、地域関係者やボランティアの方々とのふれあいにより、生徒たちにとって温かいつながりを持つことができた。



【 牛乳パックに土を入れ、種を蒔いている 】

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

来年度以降も継続的に保育実習に取り組んでいけるよう、実習先となるこども園との打ち合わせや連携を密に図っていきたい。また、地域と学校のニーズの重なりを検討し、地域ボランティアを活用していきたい。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

学校運営協議会における熟議を通して、地域課題解決型学習に向けたアイデアを出していただいております。地域人材活用に係るパイプ役を担っていただいている。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(事務職員)

報告書記入者(地域連携担当教職員)